

第九十回帝國議會
衆議院

食糧緊急措置令(承諾を求める件)委員會議錄(速記)第十五回

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
農林中央金庫法の一部を改正する法
律案(政府提出、貴族院送付)

昭和二十一年八月二十九日(木曜日)午
前十時三十六分開議

出席委員

委員長 須永 好君

代理委員長 信行君 坂本 實君

理事 幸太郎君 坂田 道太君

大井直之助君 坂田 道太君

杉田 一郎君 本多 花子君

森田 豊壽君 苦米地義三君

保利 茂君 金子益太郎君

細田 綱吉君 北 政清君

米倉 龍也君 平野 八郎君

小坂善太郎君 野本 品吉君

高倉 輝君

出席國務大臣

農林大臣 和田 博雄君

出席政府委員

農林事務官 石川 準吉君

農林事務官 佐野 憲次君

農林事務官 佐野 憲次君

本日ノ會議ニ付シテ議案

農林中央金庫法の一部を改正する法

律案(政府提出、貴族院送付)

○須永委員長代理 開會致シマス、委

員長ガ見エテ居リマセムカラ、私ガ理

事ノ故ヲ以テ委員長ヲ務メサシテ戴キ

○米倉委員 昨日農林大臣ニ、今後ノ

我が國ノ食糧緊要ノ在リ方ニ付キマシテ

御尋ネテ致シマシタ所、大體私共老ヘ

リマシテ、何處マデモ是ハ食糧緊要ヲ主

テ居リマシタヤウナ線ニ沿ツテ、即チ

食糧對立シナイ組織、機構デ

今後ノ食糧緊要ノ運管ガ圖ラレテ行カ

ケレバナラナイト云フコトニ付テ、御

同感ノ意ヲ表サレタヤウニ聴イテ居

マスガ、更ニ進ンデ、モウ少シ食糧行

政ノ今後ノ指導方針ニ付テハ確立ヲ、

私ハ食糧行政ノ當局ニ御願ヒマシ、御

所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、

食糧緊要位我ガ國ノ産業ノ上デ變遷ノ多

クサタ申シマスカ、波瀾重疊ノ經過

ヲ經テ來タモノハナイノデアリマシ

テ、サウ云フ經過カラ見マシテ、一體

原料諸ト云フモノノ極メテ多數ガ、農

家カラ零細ナモノヲ集メテ來ルモノデ

アルシ、ソレガ又短期間ニ乾燥シテ

ニシテ食糧緊要ト云フモノヲ考ヘテ行

ク、此ノ精神ガ根本デアルト思フノ

デアリマス、今日時代ガ變リマシタカ

ラ、サウ云フ特約取引ノ認可制トカ、或

ハモウ産業組合合法ガアリマセムカラ、

從來ノヤウナ産業組合製絲ト云フヤウ

ナ、サウ云フ形ヲ固執スル譯デアリ

マセヌ、ソレハ當然色々變ツテ參リマ

スケレドモ、結局今度食糧緊要統制法ガ

ナクナリマシテ食糧緊要法ガ出來タ、食

糧緊要法ニ依ツテ食糧行政ヲ行ツテ行

クノデアリマスルガ、サウ致シマシテ

モ、其ノ精神ハ、曾テノ産業處理統制

法ヲ精神ヲ以テ行クノデアリマス、再

ビ又食糧緊要法ノ對立ト云フヤウナ

トガ考ヘラレル譯デ、此ノ食糧緊要法

ノ對立ヲ見ナイヤリ方ト申シマスル

ガ、詰リ協同組合ノ形デアラウト思

フノデアリマス、此ノ協同組合ノ組織

ガ食糧緊要法ニ依ツテモ行ハレルシ、

食糧緊要法ニ依ツテモ出來ルト思

フノデアリマス、政府ノ御當局トシテ

ハ、先ツ先程來申シマスル指導精神

ドコニアルカト云フコトト、サウシテ

協同組合組織ノ行キ方ガ、食糧緊要

法ニ依ツテヤルガ宜イノデアリカ、サ

ウ云フ點ニ付テ御考ヘラ先ツ承ツテ

置キタイト思ヒマス

○佐野政府委員 御話ノヤウニ、食

糧緊要ニ付キマシテハ、何ト申シマシ

テモ食糧緊要本體デアアルノデアリマシテ、食

糧緊要ノ立場ヲ十分考慮致シテ參ル必

トガ一緒ニナツテ協同組合ヲ作ルコト

ガ出來ルノデアリマス、食糧緊要ハ商

作ル、製絲家ハ工場經營ヲヤリ、工場

ノ技術ヲ擔任シテ行ク、お互ヒニ特長

ヲ發揮シ合ヒマシテ、是ガ一ツノ協同

組合ヲ作ツテヤツテ行クト云フ形ガ執

リ得ルノデアリマス、製絲家ト協同

シテヤツテ參ル場合ニハ、協同組合

ヲ作ツテ行カネバナラヌ、食糧緊要

ヤル場合ニハ農業者デアルノガ本筋

アル、サウ云フ積リデ居リマス

○須永委員長代理 農林大臣ガ御出席

ニナリマシタカラ、大臣御忙シイト

存ジマスノデ、大臣ニ對スル質問

テ戴キタイト思ヒマス

○米倉委員 食糧緊要コトデ一點

イノデハナイ寧ろ實際上ノ算盤ハ、官廳ナドヨリモ、實際ニ即シテ算盤ヲ探ツテ居ルノデゴザイマス、ソレ等ノ人ガ、ドノ位ナ程度ガ適當デアルト云フヤウナコトヲ「官廳ノ方カラ言ハバ科學的デナイカモ知レマセウケレドモ、兎ニ角常識トシテ算定シ、ソレガ一ツノ與論的ナモノニナツテ居リマス、其ノ老ヘト非常ニ懸ケ離レタヤウナコトヲ、殊ニ適當デナイ時期ナドニソレガ發表サレマシテモ、農村ノ人々ハ何等ソレニ感謝ヲ致シマセヌシ、生産意欲ノ上ニ何ノ效果モナイコトハ、今日マデ澤山經驗シテ居ル譯デアリマス、事實現在ノ農村ニ於キマシテハ、二千掛前後ノ最モ適當デアルト云フ風ニ與論ガ動イテ居リマスルシ、常識ニモナツテ居ルヤウニ私共思フノデアリマス、今度改正ナサル掛目ハ、大體新聞デ言ハレテ居ルヤウナコトハ唯一片ノ噂デアツテ、マダ決定シナイト云フナラバソレマデデアリマスルガ、大體ドノ位ナ所落著クダラウト云フ御見透シガアリマスナラバ、御洩ラシテ願ヒタイト思ヒマス

○和田國務大臣 爾ノ價格ハマダハツギリトハ決マツテ居リマセヌ、是ハ經濟安定本部デ、ヤハリ米價ヲ決メマシタト同ジヤウニ、色々ナ點ヲ考慮シマシテ決定スルノデアリマシテ、新聞ニ出テ居リマスルヤウニ、最終的ニ決マツタ譯デモ何デモアリマセヌ、唯農業者ノ方カラ申シマスレバ、ヤハリ農産物ノ間ニ不均衡ガアツテハナリマセヌシ、農産物間ノ均衡ハ、ヤハリ取ツタモノノ私等トシテハ致シタイト思ツテ居リマスシ、生糸ノ方ハ「アメリカ」ノ關係ガアリマスルノデハ、サウ云ツタヤウナ事情モ、價格決定ノ場合ニ於テハ

一ツノ要案トシテ考ヘラレルモノダト思フノデアリマスルガ、唯農家ガ一應期待シテ居ルト云フコトダケヲ根據トシテ、ソレヲ決定スルコトハ、價格決定トシテハ中々參ラヌノデアリマス

○細田(綱)委員 私ハ大臣ニ、極メテ簡單デ宜シウゴザイマス大臣ノ御伺ヒ致シタイノデアリマス、尙ホ關係局長ノ方ニ答辯ヲ御廻シ願ツテモ結構デアリマス、最近商工省ガ可ナリ大體企業ノ許可ヲ撤廢シタノデスガ、農林省ニ於テハ、マダ殆ドサウシタヤウナコトガ見受ラレナイ、譬ヘテ申シマスルト、油ヲ搾ラウト致シマシテモ、縣デ二、三ト力四、五ト力云フ極メテ少數ノ人達ガ獨占シテ居ツテ、外ノ農民、或ハ農産物ノ加工ヲシテ來タ人達ガソレヲスルコトガ出來ナイ、隨テ其ノ方面ノ加工業ガ極メテ不振ナノデアリマス、今後企業許可ノ大幅ナ制限ノ撤廢ヲシタラドウカト云フ風ニ老ヘラレタルノデスガ、此ノ點ヲ一ツ伺ツテ置キタイノデアリマス、之ニ關シテ一ツノ實例ヲ申シマス、茨城縣ニ於テハ、今所謂搾油業トシテ指定サレテ居ル人ガ五人アル、而モソレハ水戸ノ中心ニ極ク一部ノ區域ニ限ラレテ居ル、ダカラ此ノ人達ダケデ油ヲ搾ルト云フヤウナコトニナルカラ、農民ニハ極メテ不便ニナツタ結果ハ、譬ヘテ申シマスト、長イ間水戸線ノ沿線ハ、春先ニナルト一面ノ菜種ノ花デアツタノデスガ、最近ハ少シモ作ツテ居ナイ、作ツテ居ナイ所ニ麥ヲ作ルカト云フト、決シテサウデハナイ、遠イ所マデ菜種ヲ持ツテ行ツテ搾ツテ賣ツテ、サウシテオ役所ニ行ツタヤウナ扱ヒ受ケテ、チツトバカリノ輕當ヲ賣ツタ所ガ、事實上輸送ノ關係ヲ持ツテモ行ケナイ

シ、計算ニモ合ハナイト云フヤウナコトデ、國民ノ食生活ノ上デ最モ必要ナ菜種油、或ハ其ノ他ノ油ガ生産サレナイト云フヤウナ狀況ニアリマス、是ハ極端ナ今マデノ企業許可ノ制度ガ、禍ヒヲシテ居ルト考ヘルノデスガ、モウ少シ之ヲ開放シタラドウカ、開放スルコトガ農民ノ其ノ方面ニ於ケル生産意欲ヲ增加サシテ、却ツテ多遊バシテ居ル所ニ菜種其ノ他ノモノヲ作ツテ、一面油ヲ搾ヘレバ、肥料ニモ廻ハスト云フコトガ出來ルト思フノデスガ、今其ノ面ハ企業許可ト云フ隘路ニ依ツテ阻マレテ居ル、此ノ點ニ付テノ大臣ノ御所見ヲ伺ヒマス

ソレカラ農村ノ電力デアリマス、此ノ點ハ他ノ先諸氏カラ伺ツタコトト思ヒマスカラ、私ハ極メテ簡單ニ申上ゲタイノデスガ、ドノ農村ヲ見テモ電力ガ不足シテ居ル、特ニ電燈スラマダナイ農村ガ全國ニ澤山アル、是ハ果シテ農林省ノ所管デアルカドウカ分リマセヌガ、マダ油ノ燈火ヲ點ケテ居ル農村ガアル、又電燈ヲ點ケテ居ツテモ、電壓ガ極メテ低イコトニ依ツテ、農村デ百燭光位ノモノガ東京ノ三十燭光位シカ光燭ガナイト云フ風ニ、農村ノ電力問題ハ、此ノ點デハ農村電力化ノ面カラモ、或ハ農村文化ノ向上ノ面カラモ、放置出來ナイノデハナイカ、農村ニ對シテモト豐富ナ、低廉ナ電力ヲ供給シ、電燈ハ勿論、農業方面ニモ利用ノ出來ルヤウニ、ソレガ一舉ニト云フ譯ニモ行キマスマイガ、サウシタ方ヲ講ジナケレバナラヌト考ヘマスガ、少クとも私ノ廻ハッタ方面デハ、未ダ何レノ官廳カラモソレ等ニ對スル手ガ打ラレテ居ナイト私ハ考ヘマス、之ニ對シテ大臣ノ御所見ヲ伺ツテ置キ

マス

ソレカラ食糧管理ハ此ノ儘デハ相成ラナイ存在デアリ、機構デアリ、人的ノ配置デアリナイカト思ヒマス、食糧管理ニ對スル非難ノ聲ハ、私ガ申上ゲルマデモナイ、ドウ云フ風ニ之ヲサレルノカ、或ハ此ノ儘デ宜イト考ヘルカ、此ノ點ヲ御伺ヒ致シマス

ソレカラ農業會ノ經理、經營ノ方法デスガ例ヘバ十ノ農業會ヲ取ツテ見ルナラバ、殆ンド十トモ違ツタヤウナ經理、經營ノ方法ヲ執ツテ居ル、モウ少シ之ヲ懇切ニ指導シナイト、マルデ農業會ノ幹部ノ頭ニ依ルデタラメ經營ガ續ケラレル、之ニ對シテ一ツノ基準ヲ與ヘルコトガ、公的ナ農業會ノ經營並ニ經理ノ方針トシテ必要デアルト考ヘルガ、之ヲ農林省ハ指導ノ面ニ一歩ヲ進メテ居ラレルカドウカ、御伺ヒ致シマス

米價ノ點デハ、曾テ大藏大臣ガ九公ト閣ノ中間ガ納マルベキ價格デアルト云フヤウナ御答辯ガ本會議場デナサレタノデスガ、ヤハリ米價ニ於テモ、サウシタ考ヘノ下ニ進ンデ居ラレルノカ、サウスルト農林省ハ、圍價格ト云フモノガドノ程度ニ實際行ハレテ居ルト云フ風ニ御觀察ニナツテ居ルデセウカ、或ハ農林當局ノ御意見ハ、ソコマデ御考ヘニナツテ居ナイカ、又ハ農林省ガ其ノ意見ヲ持ツシテモ、大藏省ガ容レカドウカト云フコトハ別デアリマスガ、少クとも曾テ大藏大臣ガ言ハレタ、サウシタ圍價格ト丸公ノ中間價格ヲ、將來ノ中庸ナ價格デアルト思ハレマスルト、我々ハ將來ノ米價ノ決定ハ相當大幅ノ引上ゲヲ要スルト思フノデアリマスガ、ソレニ對スル御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

ソレカラ最後ニ、依然トシテ農村ニ關肥料ガ横行シテ居ル、而モ極メテ高價ニ横行シテ居ル、大臣ハ本會議場デ、肥料ノ國營ハ「イデオロギー」トシテハ賛成デアルガ、併シ其ノ方面ニ付テハ委員會デモ持テ研究ヲ進メタイト、斯ウ云フ點ニ御意見ヲ伺ツタコトガアリマスルガ、此ノ儘デハ正規「ルート」ニ流レテ居ルニ比シテ、相當ナ量ガ假ニ早急ニ行カナイニシテモ、肥料會社ノ經營管理ト言ヒマスカ、或ハ監督ノ強化ト言ヒマスカ、ソレニ力ヲ盡サナイト、私ハ肥料ノ閣ト云フモノガ益々其ノ量ヲ高メテ下リタイカト思フ、製作カラ米價ノ値下リト云フヤウナコトモ傳ヘラレテ居ル時ニ、肥料ノミガ農民ノ懷古ニ極メテ高イ金ヲ要求スルト云フコトニナルト、農村ノ經營ハ成立タナクナルノデ、肥料ノ閣ヘ流レル方面ヲ、斷乎トシテ取締ルコトガ必要デアルト考ヘマスルガ、此ノ點ニ付テノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○和田國務大臣 御答ヘ致シマス、最初ハ農林省關係ノ企業ノ許可ヲモウ少シ緩メタラドウカ、斯ウ云フコトデアリマスガ、是ハ只今ノ所農林省ノ關係トシマシテハ、主要食糧ノ關係ト、見返物質ノ點ニ、實ハサウ云フモノハ限ツテ居ル譯デアリマス、最近ハ可ナリ整理ヲ致シテ居リマスガ、御話ノ榮種ノ點デアリマスガ、是ハヤハリ原料ノ集荷蒐集ト云フ點ヲ考ヘマシテ、ソレデ企業ノ許可ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、強手從來ノ者ニ特權ヲ與ヘル、斯ウ云フヤウナ考ヘデヤツテ居ル譯デハゴザイマセヌ、是ハ御承知ノヤウニ、凡ニルモノガ今供給ニ比シテ需要ガ多イノデアリマス、サウシテ又色々

ナ生産ノ資材モ少イ譯デアリマスカラ、サウ云フモノヲ、各業界ニ付テ勝手ニ、自由ニシテシマヒマスルト、ソレハ我レ勝チニ、強イ者勝チテ取ルト云フヤウナコトニナル、其ノ結果ハ適當ナ行クベキ所ニ資材ガ廻ラナイ、經濟ト云フモノハ一見極メテ自由ニシタガ故ニ良クナルヤウニ思ハレマスガ、實ハ却ツテ全國全體ノ立場カラ言ヘバ不自由ニナルト、斯ウ私ハ考ヘテ居リマスノデ、出來ルダケサウ云フコトノナイヤウニ、又企業ノ許可ト云フモノニ依ツテノ弊害ガ起ラナイヤウニ、其ノ場ノ色々ナ具體的ナ事情ヲ十分考ヘタ上デ、ソレハノ許可ヲ與ヘテ居ルノデアリマシテ、實ハ許可必ズシモ、アナタノ仰シヤイマスヤウナ禁止ト云フコトヲ意味スルノデハナイノデアリマス、唯大體今大キナ方向ハ、主要食糧關係ト見返物資トニ限定致シテ居リマス、是ハサウ云フ許可ノ制度ヲ漸次解イテ行キマスノハ、ドウシテモ生産ト言ヒマスガ、全體ノ經濟ノ部面ガ實質的ニ回復シテ行ク、サウ云フコトヲヤツテ漸次外シテ行クト云フコトデアリマセスト、是非非常ニ混亂ガ起ツテ來ルノデハナイカト思ヒマス、是ハ私ノ根本的ナ考ヘ方デアリマスガ、現在ノ日本ニ於キマシテハ、ドノ方面ニ於キマシテモ、生産力ノ低下ハ何トシテモ避ケナケレバナラヌ、是ハ今ノ時代ノ國ノ要請ナンドデアリマスカラ、偶々ノ所ニ於テ、「ロヂカル」ニ、純粹ニ考ヘレバ非常ニ不合理ダト考ヘラレテモ、ヤハリ生産力ト云フ點カラ凡ルモノヲ考ヘテ行カナケレバナラヌ、斯ウ批判シ、又建設シテ行カナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘテ、實ハ色々ノ問題ヲ整理シテ行ツテ居ル譯デアリマス

ソレカラ農村電化ノ點デアリマス、是ハ御話ノヤウニ、日本ノ農村ハマダ電化セラレテ居ナイ部分ガ非常ニ多クアリマス、生活ノ面ニ於テモ、ソレカラ生産ノ面ニ於テモ、御話ノ通りデアリマシテ、此ノ點ニ付テハ、農林省トシテモ是非電化ヲ致シテ行キタイト思フノデアリマスガ、是ハ資材其ノ他ノ關係ガ、御承知ノヤウニ現在デハ非常ニ窮乏デアリマス、ソレマデ色々ナ具體的ナ案ヲ立テルニシマシテモ、急速ニ之ヲ行フコトハ中々出來ニクイト云フ實情デアリマスガ、我々ノ理想トシマシテハ、細田サンノ仰シヤイマスヤウナ風ニ、努力致シタイト思ツテ居リマス、農村電化ノ點ニ付キマシテハ、農林省トシテハ、此ノ問題ハ全面的ニ取上ゲテ居ルノデアリマシテ、唯豫算ニ組ム組マヌノ問題デハナク、農林省ノ設政局ニ於テ、凡ル面ト接觸ヲ保チ、研究ヲ續ケサシテ居リマス、農村電化ト云フコトハ、御承知ノヤウニ、アノ「アメリカ」デサヘマダ電化シテ居ナイ村ガ實ハアルノデアリマス、是ハ今ノ日本ニ取ツテ言ヒマスレバ、農村側ノ問題ヨリモ、寧ろ農村外ノ工業方面ノ生産ノ再開ト云フモノヲ急速度ニヤツテ行クト云フコトガ伴ヒマセヌト、農林省ガドナンニ農村電化ニ熱意ヲ持チマシテモ、具體的ナ進行過程ガ早クタイト思ツテ居リマス、我々トシマシテハ、併シサウダカラト云ツテ放ツテハ置ケマセヌノデ、將來ノ農村ノ事情ヲ十分考ヘマシテ、良イ農村ヲ造リマス爲ニモ、農村電化ノ問題ヲ、大キナ問題トシテ取上ゲテヤツテ居ル譯デアリマス、漸次農村方面ノ施設シテモ具體化シテ行キタイ、斯ウ考ヘテ居リマス、今年ハ儘カノ豫算デ、甚ダ

此ノ點ハ遺憾デアリマスガ、將來ノ問題トシテハ十分力ヲ入レテ行キタイト思ヒマス
ソレカラ食糧營團ノ處分ノコトデアリマスガ、食糧營團ハ解散スルコトニ決マリマシテ、今手續中デアリマス、地方ノ食糧營團ハ、食糧ノ配給統制ヲヤツテ居リマス以上、ドウシテモソノ何等カノ組織ガ必要デアリマスノデ、此ノ食糧營團經營ノ點ニ付キマシテハ、十分之ヲ民主主義化致シマシテ、又消費者ナラ消費者ノ、食糧營團以外ノ人達ノ實際上ノ監督ガ出來マスヤウニ、經營ニ於テ十分之ヲ良クシテ行キタイト、始終實際ニヤツテ居ル譯デアリマス、ソレカラ、食糧營團ノ本當ニキリ方ノ點ナカハ、ドウカ具體的ニ御教ヘ下サイマスナラバ、ソレ等ノ點ニ付テ、我々トシテハ、直グ食糧營團ニ命ジテ、直サセテ行キタイ、斯ウ考ヘテ居ル譯デアリマス
ソレカラ農林省ノ經營經理ニ付テノ問題デアリマスガ、農林省ハ戰爭中元ノ農會ト產業組合トガツニナツタ譯デアリマスガ、色々ナ仕事ガ茲ニ加ハリマシテ、戰時統制ノ一翼ヲ擔イデ、實ハ仕事ヲヤツテ來タ譯デアリマスガ、經理面ニ付キマシテハ、從來ハ國家ニ於キマシテソレノ監督ヲ致シタノデアリマス、相當ノ人ヲ使ヒマシテ、產業組合ニシテモ、農會ニシテモ、毎年必ズヤツタノデアリマスガ、戰爭中ソレ等ノ點ガ人ノ關係、又ハ交通ノ關係、其ノ他食糧事情等デ、事實上行ハレテ居ナイ現狀デアリマス、是ハ政府ト致シマシテハ非常ニ遺憾ト考ヘマシテ、實ハ農林省ノ經理ニ關シマスル——農林省ノ仕事ガ多クナレバナラヌ、又實際金銀ヲ使フコト

ガ多クナレバナラヌ、此ノ監督ハ嚴重ニ致スベキデアリマスノデ、農林省ト致シマシテハ、此ノ監督ヲヤル爲ニ、實ハ今ハ人ガ散ツテシマツテ居ナイノデアリマス、一ツノ監督ヲヤルニ致シマシテモ相當ノ人数ヲ要スルノデアリマシテ、又專門家ヲ必要トスルノデアリマシテ、其ノ專門家ノ養成ニモ努メテ居リマスガ、是ハ是非監督ヲヤツテ行キタイト思ヒマス、只今自主的ナ監督聯合會ガアル譯デアリマスガ、唯是ダケニ任セテ置ク譯ニハ參リマセヌ、我々トシテハ準備ハ致シテ居ル譯デアリマスガ、マダ徹底的ナコトガ出來ナイコトヲ甚ダ遺憾ニ思ツテ居ル次第デアリマス
ソレカラ米價ノコトデアリマスガ、閣下丸公ト中間ト云フ點ハ、石橋サシガ物價ノ水準トスルト云フヤウナコトヲ言ハレタノデアリマスガ、我々ハ米價ヲ決マセマスル時ニ、閣下丸公ト中間ト云フモノハ考ヘテ居リマセヌ、殊ニ閣價格ト雖モ實ニ千差萬別デアリ、唯一時的事事情ヲ反映シテ居ルモノアリマシテ、是ト丸公ト中間ガ水準デアルト云フコトハ、少クトモ米價ヲ決定致シマス場合ニハ、サウ云フモノガ決定致ス譯デアリマセヌ、是ハ度々御説明申上ゲタヤウナ次第デアリマス
ソレカラ肥料ノ問題デアリマスガ、此ノ點ハ皆樣方カラモ、又凡ル方面カラモ非常ニ注意ガアリマシタノデ、肥料ノ取締ニ付キマシテハ、嚴重ト通牒ヲ發シテ居ル譯デアリマスガ、恐ラク化學肥料ニ付テハ、肥料ノ量ト云フモノハ、是ハ總體カラ見マスレバ、正確ナ數字ハ掴メマセヌガ、何トシテモ極ク儘カノモノダラウ

ト思ヒマス、ソレガ傳ハリ傳ツテ、如何ニモ澤山ノヤウデゴザイマスガ、ソレハドウカト私ハ思ヒマス、唯他ノ有機質ナリ其ノ他ノモノニ付キマシテハ、多少サウ云フモノガアツタト思ヒマスガ、ソレ等ノ點ニ付テハ、今後モ十分取締ノ嚴重ニシテ行キマス、殊ニ肥料ノ工場管理ノ點ニ付キマシテハ、是ハ目下諸般ノ問題ト絡ミマシテ、是非我々ト致シマシテハ、肥料ニ付テノ何等カノ、増産ト云フコトヲ目標ニシタ、或ル程度ノ管理のナ措置ヲ講ジタイト思ツテ居リマス
○須永委員長代理 細田君
○細田(綱)委員 我々一部ニ傳ヘラレテ居リマスル如ク、終戰同時ニ日本ノ經濟ハ自由主義ニ戻ルト云フ風ニハ考ヘテ居ナイガ、併シ我々最モ警戒シタクテハナラナイノハ、能率モ惡カッタシ、評判モ惡カッタ例ノ官僚統制デアリマス、即チ今後ノ經濟ハ自由主義經濟ニ戻シ宜イ云フコトニハナラナイト同時ニ、官僚統制ヲ其ノ儘持續シタイ云フコトニモナラナイノデアリマス、其ノ最モ極端ナ好イ例ヲ種ノ搾油ニ付テ申上ゲテ見マス、農林省ハ恐ラク全國のニ搾油業者ノ地域的ナ分布ヲ御調ベニナツテ居ナイト思ヒマス、譬ヘテ申シマスナラバ、茨城ノアノ北ハ平ノ境カラ、西ハ古河ノアノ廣イ所ヲ、水戸ノ中心ニ僅カ五人ノ人達ヲ許シテ置イテ、他ノ人達ガドウシテ其處マデ持ツテ行ケルデセウカ、持ツテ行カヌモ持ツテ行ケナイ、ソレハ不可能ナノデス、ソレレオ前達某種ヲ作レト云ツタ所ガ作ル管ガナイ、榮種ガ要ラナイモノナラ別デスガ、榮種、胡麻、落花生等ハ、國民ノ榮養ノ上カラモ非常ニ必要デアリ、又其ノ粕ハ重

要ナ肥料ノ役割ヲスルモノデス、ソレヲ此ノ輸送ノ困難ナ時ニ、八里十里モ十五里モ持つて行ケト云ツテモ、持つて行ケハナイ、而モ、粉モ貰ツテ來ル、油モ貰ツテ來ル、輸送モ極メテ簡単ダト云フコトナラ別デスガ、輸送モ可ナリノ間デ持つて行カナケレバナラヌ、油ノ戻シテ貰フノハ極メテ少最ダト云フコトデ、ドウシテ持つて行ク氣ニナルカ、持つて行ケナイ限り其ノ落花生ナリ、胡麻ナリ特ニ菜種等ノ生産意欲ハ出テ來ナイノガ當然デアリマス、從ツテ、私ハ簡單ニ自由經濟ニ戻スト云フコトハ考ヘテ居ナイガ、サリトテ斯クノ如キ單ナル机ノ上ノ官僚統制ヲ持續サレタノデハ、全國的ニ加工ヲ目的トスル農産物ハ段々減少シテ行クノデヤナイカト考ヘテラマス、ソコデ私ハ希望トシテ申上ゲタイノデスガ、例ヘバ菜種ノ搾油業ガ各縣ニドウ云フ所ノ地域的ニ分布サレテ居ルカト云フコトヲ、一ツ御調ベ願ヒタイ、是デ宜イト云フヤウナ考ヘハ私ハ決シテ出テ來ナイと思ヒマス

ソレカラ食糧緊要ノ點デアリマスガ、中央ハ解散サレル、地方ハ其ノ儘ト云ヒマスケレドモ、私ハ問題ハ地方デヤナイカト思フデアリマス、中央ノ統制ガナクナルト、尙更出鱈目ニナツテ來ルノデヤナイカト思フ、特ニ民間デアレバ許サレナイヤウナコトガ新聞紙ニ載ツテモ、食糧緊要支部ナルガ故ニソレガ警察ノ問題ニナラヌト云フヤウナコトハ、殆ド枚擧ニ違ガナイノデアリマス、是ハ何トカシナケレバナラヌト云フコトヲ大臣ハ仰シヤルケレドモ、是ハ早速ニシナケレバナリマセヌ、特ニ私ハ、配給ヲ受ケル方面ノ代表者ヲ参加サセテ貰ヒタイト云フコトニ付テ、是非具體的ニソノ考ヘヲ進メテ戴キタイト云ウコトヲ希望トシテ申上ゲテ置キマス

○須永委員代理 次ハ高倉輝君
○高倉委員 此ノ戰爭中ニ農林中央金庫ハ販賣代金ノ振替貯金ナドノ方法デ二百二十億圓ノ農林中央金ニ集メシテ、其ノ中ノ百三十億圓ヲ中金ニ集メテ居リマス、サウシテ其ノ百三十一億圓ノ中ノ七十二億圓ガ國債デ、十二億圓ガ朝鮮、滿洲ナドノ投資ニナツテ居リマス、詰リ中金ハ集メタ貯金ノ六四%ヲ侵略戰爭ノ爲ニ使ツタコトニナツテ居リマス、是ハ是マデノ農業會ノ軍部トノ結付キ、並ニ其ノ官僚的ナ性格ヲ持つて居ツタコトヲ能ク現ハスモノデアリマスガ、特ニ植民地投資ニ付キマシテハ中金ハ府縣農業會或ハ市町村農業會ヲ通ジマシテ、之ヲ非常ニ熱心ニ勸メテ、其ノ結果市町村農業會二億圓、府縣農業會十億圓、中金十二億圓、大體合計三十二億圓ト推定サレル額ヲ植民地投資トシテ居リマス、是ガ今度ノ軍需補償ノ打切りカラ回収不能ニナツテ居ル現状デアリマスガ、之ニ對スル責任ヲドウ云フ工合ニ感ジテ居ラレカ、又是ハ誰ガ此ノ責任ヲ負フベキモノデアリカト云フコトヲ先ツ伺ヒタイと思ヒマス

○石川政府委員 只今ノ御質問ノ點ニ御答ヘ申上ゲマス、成ル程戰時中ニ於キマシテ、中央金庫ガ色々外債ヲ持つタリ、或ハ其ノ他ノ債權ヲ持つタリ、デゴザイマスガ、ソレハ當時ノ戰爭遂行中ニ於キマシテ已ムヲ得ザルコトデアリタト思フノデアリマス、現在考ヘマシト、ソレハ極メテ危險ナ、不能ニ近イヤウナ債權ヲ取ルト云フヤウナコトハ非難サレルヤウナコトデアリマス

ガ、恐ラク當時ノ理事者ト致シマシテハ、左様ニ思ツタノデハナイカト思ヒマスガ、併シナガラ此ノ點ニ付キマシテハ、我々トシマシテモ、今後ドウスルカト云フ點ハ、今出來マスル所ノ金融再建ノ措置ト觀ミ合セテ十分考慮シテ行キタイ、斯ウ考ヘテ居リマス、尙ホ府縣農業會、市町村農業會ニ對シマシテ、中金ガ命令シタト云フヤウナ御話デアリマシタガ、私等ノ聞イテ居リマス範圍内ニ於キマシテハ、取付のナ回收ハヤツテ居ルヤウデアリマスガ、別段是非レト云フヤウナ命令ニマデハ及ンデ居ラヌヤウニ思フノデアリマス、尙ホ是等ハ何レモ餘裕金ノ運用トシテ、本來ノ所謂系統機關トシテノ需要ニ支障ノナイ程度ニ於テヤツテ居ルコトハ、十分御諒承願ヒタイと思ヒマス

○高倉委員 上カラ強制シタノデハナイト云フ御話デゴザイマシタケレドモ、事實ハ農民ガ餘ツタ金ヲ出シタノデハナクシテ、是ハヤラナケレバイケナイト云フ所ノ義務付ケテ、農業會其ノ他カラ勸メマシテヤツタモノデアリマス、隨ヒマシテ、是ハ當然責任ヲ負ハナケレバイケナイデアラウト私ハ考ヘマス、特ニソレニ對シテ責任ヲ負ハナイ一ツノ實例ト致シマシテハ、例ヘバ今マデ軍需のナ勢力ト結ビ付テ是ノ援助ヲシテ居ツタト云フヤウナコトヲ、今總務局長ノ御話デモ現ニ認メテオイデニナルニ拘ラズ、現ニ中金ノ荷見理事長ハ、戰犯ノ故ニ公職追放ヲ命ゼラレテ居ルニモ拘ラズ、現在其ノ職ニ就イテ居ラレル、是ハ噫カドウカ知リマセヌガ、農林省其ノ他ノ官吏ガ、此ノ理事長ノ現職ニ在ルコトヲ、類リト運動シテ居ルト云フコトノ噂マデ飛

ンデ居リマス、是等ノ事實ヲ聞イテ、又荷見理事長ガ經濟團體ノ常務理事トナツテ居リマシテ、今度ノ銀行「シンヂケート」ニ勸キ掛ケテ居ル現象ヲ見マシテモ、是マデノ官僚的ナ、又軍國主義的デアツタ農業會ノ方針ト云フモノヲ、一向改メテ居ルヤウニ見エマセヌノデスガ、殊ニ今ノ理事長ノコトニ關スル御所見モ承リタイと思ヒマス

○和田國務大臣 中金ノ理事長ノ問題デアリマスガ、之ニ付キマシテハ、特ニ中金ノ理事長ニ付テドウスウツ云フコトハ實ハナイノデアリマシテ、唯斯ウ云フ金融ノ措置ニ付テ、色々ナ從來ノ關係モアリ、仕事ガ實際ニアル譯デアリマス、我々トシテハ出來ルダケサウ云フコトヲハツキリト處理ヲ致シマシテ、サウシテ適當ニ處置致シタイト、斯ウ考ヘテ居ルダケデアリマシテ、高倉君サノ仰シヤルヤウニ、中金ノコトデアラガ故ニ、特ニ中金ノ理事長ニ付テ政府トシテヤツテ居ル、斯ウ云フ考ヘハ毛頭アリマセヌ、事情サヘハツキリシマスルナラバ、我々トシテハ何時デモ適當ナル人ニ決ヘルト云フコトハチツトモ差支ヘナイノデアリマス、唯今斯ウ云フ金融ノ事情ニ付テ非常ニ混亂ガ豫想サレル譯デアリマス、ソレ等ノ仕事ト云フモノヲ適當ニ處理シテ戴クト云フ意味デ、今マダ居ラレル譯デアリマスカラ、左様ニ御諒承ヲ願ヒマス

○高倉委員 今其ノ必要ガアルカラ、遽ニサウ云フ措置ガ執レナイト云フ御話デアリマスケレドモ、併シ戰犯ニ依ツテ公職カラ追放サレト云フコトニ對シテハ、随分重要ナ地位ニ在ルモノ、是ハ已ムヲ得ズ去ラナケレバイケナイノデアリマシテ、是カラ日本ヲ民主主

義化スルニハ、サウ云フ戰爭犯罪人トシテ確認サレルヤウナ人が公職ニ就イテ居ルコトハ、民主化ノ邪魔ニナルノミナラズ、是ハ國際信義ノ上ニモ大キナ妨ゲガアル譯デアリマスカラ、多少一時不都合ガアルト云フヤウナコトデ、之ヲ放置シテ置クベキモノデハナカラウト思フ、最近ニ、追放令ニ違ツタ人ガ、政治機關ニマダ殘ツテ居ルハ宜クナイト云フ新シイ聲明サヘ發セラレテ居ル狀態デアリマスカラ、ソレヲ官廳ノ内デサウ云フ態度ヲ御執リニナルコトハ、官廳自身ガ是マデノ官僚的ナヤリ方、軍國主義的ナヤリ方根柢カラ反省シテ居ナイト云フ非難ヲ受ケテモ仕方ガナイダラウト思フノデアリマス、サウ云フ意味デ、ヤハリ此ノ問題ハ解決サレル必要ガアラウト思ヒマス、同時ニ又斯ウ云フ問題ガ起キテ參リマスノモ、結局役員ヲ官僚ガ任命スル所ノ今ノ官僚制度カラ來テ居ルデアリマスカラシテ、之ヲ民主化スルト云フナラバ、ヤハリサウ云フ方面ヲ民主化スル方法ヲ、具體的ニ御考ヘナラナケレバ、幾ラ口デ民主化ヲ言ツテモ、是ダケデハ民主化ニハナラヌダラウト思フノデアリマス、是ハ意見トシテ申上ゲテ置キマス、時間ガナイヤウデアリマスカラ簡單ニ質問ヲ進メテ行キマスガ、モウ一ツ今度ノ改正ニ付キマシテ、殊ニ肥料會社ノ「シンヂケート」團ニ對シテ二十億圓ノ投資ヲシテ、本年既ニ拂込シテ居ラレマスガ、此ノ肥料會社ニ對シテ何ノ發言權モ持つて居ナイト思ハレマス、サウスルト、是マデノ軍國主義的ナ投資ノ代リニ、新シク金融資本ト結ビ付テ、其ノ方ノ便宜ヲ開ク爲メノ改正デアルト云フ非難ヲ受ケテモ仕方ガナイヤウナ點ガア

ルヤウニ思ヒマスガ、此ノ點如何デア
リマセウカ、御答辯願ヒタイト思ヒ
マス

○和田國務大臣 中金ノ理事長ノ點
ハ、是ハ事務柄ガ色々ノ點デハツキリ致
シマスレバ、適當ニ善處シタイト思
テ進メテ居ルノデアリマスカラ、ドウジ
誤解ノナイヤウニ御願ヒ致シマス、ソ
レカラ中金ノ民主化ノ點ニ付キマシテ
モ、是ハ現在トシテハ法律ヲ決マツテ居
リマスノノデ、役員ノ任命ト云フコト
ニナツテ居ルノデアリマス、中金其ノ
モノノ將來ノ考ヘ方ハ、是ハ此ノ前ノ
委員會デ總務局長ヤ私カラ御答ヘシタ
ヤウニ、出來ルダケ協同組合ト云フコ
トノ本旨ヲ徹底サセテ行キタイ、斯ツ
考ヘテ居ル次第デアリマス

ソレカラ肥料金融ニ付テ、中金ガ
「シンデケート」ニ入ツテ資金ヲ出スコ
トガ、是ハ金融資本トノ間ノ結託デハ
ナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、
實ハ、私共ガ肥料金融ニ付キマシテア
「シンデケート」ノ案ヲ決メマシタノ
ハ、是ハ色々ノ御批評ガ可能カト思ヒ
マスルガ、我々ガサウ云フ方法ヲ採リ
マシタ氣持ハ、アノ當時肥料ノ方デ一
番「ネック」ハ金融デアッタノデアリ
マス、肥料ノ方ニハ、復興ヲスル上ニ
於キマシテ非常ニ多クノ資金ガ要ツタ
譯デアリマス、所ガ其ノ資金ヲ事實上
出シ得ル能力ノアリマスル所ハナイノ
デアリマス、ソコデ肥料ハ農村ノ方カ
ラ致シマシテモ一番欲求シテ居ル所デ
アリ、且ツ我々ト致シマシテモ、出來
ルダケ早く肥料ノ方ノ復興ヲ願ヒタ
イ、其ノ資金難ヲ打開致シマスル爲
ニ、アノ當時ノ事情トシテ、一番力ノ
アリマシタ中金ノ資金ヲ移入スルコト
フコトニ致シタノデアリマス、主トシ

テアレハ中金ノ資金ニ依ツテ居ルノデ
アツテ、形ハ「シンデケート」ト云フ形
ヲ取ツテ居リマスルガ、我々ガアノ當
時ア云フ形デ肥料ノ金融ヲシマシタ
ノハ、今言ツタヤウナ趣旨カラデゴザ
イマス、是ハ金融ヲシタカラ、其ノ金
融ヲシタ金融機關ガ其ノ工場ノ産業的
ニ把握スルコト云フノガ、寧ロドチラカ
ト云ハバ從來ノ金融資本ガ取ツテ居
タ形態ナンドデアリマス、我々トシテ
ハ、中金ガ工場ニ金融ヲシテモ、ソレ
ハ金融ヲシタト云フ金融者ノ立場カラ
ノ色々ノ何ハアリマセウガ、ソレデ工
場ヲ全部從來ノ金融資本家ノヤウニ把
握シテ行クト云フコトヲ考ヘルノデナ
クシテ、金融ハアノ當時ノ差迫ツタ金
融難ヲ打開スル爲メノ金融デアリ、肥
料ニ對シマスルサウ云ツタ監督其ノ
他ノモノハ、是ハ國家トシテ、肥料管
理案ナラ管理案ト云フモノヲ以テ臨ン
デ行ク、斯ウ私共トシテハ考ヘタノデ
アリマス

○高倉委員 結局サウ云フコトハ、最
後ニハ官譯ケニナツテ、今大臣モ御認
メニナツタヤウニ、實際ニ農民ノ欲ス
ル所ノ肥料ガ農民ニ配布サレルヤウナ
結果ニナラナイデ、金融機關ニ利用サ
レル結果ニナルト云フ危險ヲ、其ノ中
ニ非常ニ含シテ居ル、私ハ是ハ認メナ
ケレバナルマイト思フ、サウ云フ點ガ
此ノ改正ノ中ニ含マレテ居ルト云フコ
トヲ、私ハ認メナイ譯ニ參ラナイ次第
デアリマス

尙ホモウ一點御同ヒ致シマス、今日
本ノ前ニハ、極端ニ農業恐慌ガ目ノ前
ニ迫ツテ居ルト思ハレマス、大正ノ末
カラ昭和ノ初メニ掛ケテ、アノ第一
次大戰後ノ農業恐慌トハ比較ニナラナ
イ所ノ大恐慌ガ、目ノ前ニ迫ツテ居ル

ト云フコトハ、是ハモウ否定スルコト
ノ出來ナイ事情デアリマセウ、アノ時
ノ恐慌ハ、結局ハ日本ノ資本主義ノ持
ツテ居ル内部ノ原因ガ大部分現ハレテ
來タノデアリマスガ、今度ノ恐慌ハ、
ソレト共ニ、更ニ日本ノ農業ノ是マデ
ノ國際的競争力ノ弱サト云フモノガ加
ハツテ來テ、之ヲ一層深刻ナ、悲慘ナ
モノニ陷レルモノデアラウト、私共ハ
考ヘマス、是マデハ日本ノ農業ノ國際
的競争力ノ弱サト云フモノヲ「カ
バーニスル爲ニ、外米ノ原則的輸入禁
止、或ハ税關、外地米ノ移入制限等々
ノ途ヲ講ジテ居リマシタ所ガ、今度ノ
敗戦ニ依ツテ、日本ノ農業ヲ保護スル
途ガ全クナクナツテシマツタ譯デアリ
マス、是ガ日本ノ農業恐慌ニ大キナ原
因ヲ與ヘテ、或ル意味デ日本ノ農業ヲ
破壊スル所ノ危險サヘ我々ハ感シタケ
レバナラナイノデアリマス、極端ナ例
ハ、日本ノ農民ノ作ツタ米ヲ、日本人自
身ガ買ヘナクナルヤウナ狀態マデモ豫
想シナケレバナラナイト、私共ハ考ヘ
テ居リマスルガ、現在農村ニ多少ノ金
ガアルト云フコトニナツテ居リマス
レドモ、併シ此ノ農村ノ現金ト云フモ
ノハ、殆ド是ハ生産ニ投資サレルコト
ノナイ資金デアリマシテ、所謂「イン
フレーション」ガナクナルト同時ニ、此ノ
資金モ亦消ニ去ツテシマフベキ性質ノ
モノデアリマスカラ、若シ此ノ「イン
フレーション」ガ去ツタアト、日本ノ農業ガ國
際的ナ自由競争ノ位置ニ置カレマシタ
ナラバ、農民ハ瘦セ衰ヘタ土地ト、チ
ビテシマツタ農具ト、空ツボノ財布以
外ニハ何ニモナイト云フ狀態ニ、迫
マレナケレバナラナイト考ヘルノデア
リマス、之ニ對スル對策ト云フモノ

ヲ、農林當局ハ持ツテオイデニナラナ
ケレバナリマセウシ、其ノ爲ニ中金ト
云フモノモ非常ニ大キナ位置ヲ占メル
ベキデアリマシテ、其ノ意味ニ於キマ
シテ私ハ今度ノ改正ニ大キナ意義ヲ認
メルノデアリマスガ、此ノ目ノ前ニ迫
ツテ居ル日本ノ農業ノ大恐慌ニ對シ
テ、農林當局ハ如何ナル對策ヲ御持チ
ニナルカ、又ソレニ對シテ中金ヲ如何
ニ御使ヒニナル御考ヘデイラツシヤイ
マスカ、其ノ點ヲ伺ヒタイト思ヒマス
○和田國務大臣 ドウモ問題ガ大キイ
シ、論點ガ多少ハツキリシマセウシ、
前提ガ色々アルト思フノデアリマシ
テ、中々是ハ明快ナ御答辯ハ致シ兼ネ
ル點モアルト思ヒマスガ、日本ガ恐慌
ニ曝サレル、而モ其ノ恐慌ハ一九二九
年ニ始マツタ世界の恐慌トハ違ツタ形
デ現ハレルカモ知レヌ、斯ウ云フ御話
デ、其ノ點ニ對スル對策デアリマス
ガ、是ハ私ハ斯ウ云フヤウニ考ヘマ
ス、日本ト云フ國ヲソコニ置カニ置イ
テ、唯批判的ナ立場カラ、靜態的ニソ
レヲ見テ行クト云フ立場デナクシテ、
現在日本ガ歩ンデ居ル途ハ、將來此ノ
講和會議ヲ通ジ、又他ノ世界經濟ヘ入
ツテ行ク一ツノ下準備ヲ致シテ居ル譯
デアリマス、ソコデソレニハ日本ノ經
濟ト云フモノガ、唯農業ダケデナシ
ニ、工業ノ部面ニ於キマシテモ、出來
ルダケ早く色々ノ問題ヲ處理シテ、再
開シテ、日本ノ經濟ガ、全體ノ規模カ
ラズレバ縮小サレテモ、其ノ縮小サレ
タ確カナ地位カラモウ一遍再出發シテ
行ク、斯ウ云フコトヲ早くヤツテ置ク
コトガ、今アナタノ仰シヤイマス恐
ニ對シタ時ニ、日本ガソレニ對シテド
ウ云フ程度ニ抵抗ガ出來ルカト云フコ
トヲ、決定スルモノダラウト思ヒマ

ス、ソレナクシテハ問題ハ私ハ解決出
來ナイト思ヒマス、日本ノ經濟ニ農業
自體ガ孤立シテ存在シテ居ルノデハナ
イノデアリマシテ、農業自體ノ抵抗力
ト云フモノモ、ヤハリ工業面ノ生産再
開ト相關聯シテ考ヘラルベキ問題デア
ルノデアリマス、例ヘバ石炭ガ出來、
又肥料ガ出來、サウ云フ農業ノ再生産
ニ必要ナ生産材ノ面ガ、農業ニ十分注
入サレ得マスルヤウナ條件ガ、日本ノ
工業ノ再開ニ於テ、今後日本ガ本當ノ
「フリー・ハンド」デ、裸ノ儘デ外國ト
接觸シタ時ニ、太刀打出來ルヤウナ程
度ニ出來テ居リマスナラバ、是ハ十分
ナナニ出來ルト思フノデアリマス、
サウ云フコトヲヤルベク、日本ト云フ
モノガ苦悶致シタ、建設ヲ致シテ居
ルノガ現在ノ姿ダト思ヒマス、ソレヲ
工業ノ面ノ再開ヲ差措イテ、唯農業ダ
ケノ點カラ考ヘテ、高倉サンノ仰シヤ
ル恐慌ニ對スル對策ト云フモノヲ考
テ行キヤスト、私ハ可ナリハ抽象
的ナ議論ニナルノデ、甚ダ遺憾ダト思
フノデアリマス、是ハ結局ドウ云フ商
品ニ依ツテ日本ノ農業ガ壓迫サレルカ
ト云フ問題ニナルト私ハ思ヒマス、サ
ウスレバ農産物間ノ競争ト云フモノガ
一番當議的ニ考ヘラルヤウニナルト
思フノデアリマス、其ノ時ニ農産物ト
シテ考ヘラルモノハ、ヤハリ主要ノ
食糧ダラウト思ヒマス、サウスルト主
要ノ食糧デアルト云フコトニナレバ、
是ハ朝鮮及ビ臺灣ノ米作、ソレカラ
「インド」、「ビルマ」、「タイ」佛印方
面ノ米作、斯ウ云フコトニナルダラウ
ト思フノデアリマス、ソレカラ「アメ
リカ」ノ小麦、カナダノ小麦ト云フモ
ノト競争ニナルダラウト思フノデアリ
マス、其ノ競争ガ日本ノ農業生産ニド

ノ程度ニ影響シテ來ルカト云フ問題ニ
歸著スルと思フノデアリマス、サウス
ルト、其ノ場合ニ考フベキコトハ、日
本全體トシテノ世界ノ貿易ニ參加シ得
ル其ノ方式如何ニ依ツテ、是ハマルデ
變テ來ルと思ヒマスシ、又其ノ當時
ニ於ケル日本ノ食糧其ノ他ノ事情ニ依
ツテモ、是ハ相當ニ變テ來ルチヤナ
イカト思フ、日本ノ食糧生産ガ非常ニ
窮乏デアツテ、生産力ハ上ラズ、而モ
不足デアリ、大部分ヲ輸入ニ俟タナケ
レバナラナイト云フヤウナ事情デアリ
マスナラバ、日本ノ農業ニ於ケル影響
ト云フモノハ可ナリアル、サウ云フ色
色ナ條件ガアリマスガ故ニ、私ハ生産
ノ條件又一應考ヘタ上デ、日本ノ農業
トシテ今我々考ヘテ置カナケレバナ
ラナイイハ、高倉サシガ觸レラレタヤ
ウニ、此ノ「インフレーション」ノ過程

テ、ソレヲ農民自體ノ生長ト言ヒマス
カ、教養ト言ヒマスカ、農民自體ノ一
種ノ向上ト云フカ、サウ云フモノモ必
要ダと思ヒマスノデ、爾カ致シマシテ、
農民ノ經濟的ナ基礎其ノモノヲ鞏固
ニスル、斯ウ云フコトガ、一應ハ基本
的ニハナケレバナラナイと思フノデアリ
マス、唯流通面ダケノ問題トシテ恐慌
ノデアリマス、ソレカラ其ノ場合ニ於
ケル、中央金庫ト云フモノガドウ云フ
面ニ働カト云フコトニナリマスレ
バ、私ハ中央金庫トシテハ、農業ノ生
産面ノ經營ト云フ面ニ、出來ルダケ其
ノ資金ヲ使ハシテ、行クト云フ方向
ニ、金融機關トシテノ將來ノ行キ方ガ
アルノデハナイカト、斯様ニ考ヘテ居
ルノデアリマス。

○高倉委員 農業恐慌ガ近イ中ニ來ル
ト云フコトダケハ、御認メニナツテイ
ラシヤイマスヤウデアリマスシ、唯
來方ニ付テノ問題デアリマスガ、併シ
ドツチニシマシタ所デ、現在ノ日本ノ
農業ヲ敢然保護シ、其ノ他ノ方法ニ依
ハ、ソレニ依ツテ辛ウジテ日本ノ農業
ノ國際的競争力ヲ護ツテ來タガ、護レ
ナクナシタコトハ、是ハ誰モ否定スル
コトガ出來ナイノデアリマス、サウシ
マス、例ヘバ今日日本ニスツテ居ル主
食物ト競争ト云フ話ヲ、和田サン自
身ノ方カラ御出シナリマシタガ、是
レマデノ計算デモ、大體「倍」ニ「コ
比」テ日本ノ内地米ハ二・四倍ノ「コ
比」ガ掛ルト云フコトニナツテ居ツ
タ、臺灣米ニ比ベテモ一・八倍ニナ
ツテ居ツタト記憶シテ居リマス、サウ
スルトハ是ハ運賃ヲ掛ケマシテモ向フカ
ラ入ツテ來ル米ト、ドウシテ競争シテ

テ居ルノデアリマスガ、唯斯ウ云フ積
極面モアルコトヲ御考ハ願ヒタイ、ソ
レハ經濟ハ市場ガ廣クナレバナル程、
全體ノ世界經濟ト云フモノハ安定性ヲ
持ツト云フコトデ、ヤハリ考ヘテ戴キ
タイ、日本ハ成程世界經濟ニ入ルト云
フ一面ニ於テ、競争ヲ受ケル譯デス
ガ、ソレト同時ニ、日本ノ農業ノ市場
ガ開サレルト云フ譯デアリマス、日
本ノ農業ト云フモノハ、何時マデモ米
麥中心ノ農業ニ歸路スベキモノデハナ
クシテ、相當農業ノ中ニ「ヴァライエ
テイ」ヲ持チ得ルモノダト考ヘテ居
ル、ソコデ生産力ノ問題デスガ、東亞
諸國ノ生産力ノ問題ハ、ソレハ生産力
ト云フヨリモ、寧ロ「コスト」ノ問題トサ
レタノデアリマスガ、ソレハ「インド」
ナリ其ノ他ノ國々ノ、非常ニ低廉ナ
「ミゼラブル」ナ生活ヲ基礎ニシテノ
「コスト」ノ御比較ダラウト思フ、生産
力自體カラ見レバ、私ハ日本ノ農業ノ
生産力ト云フモノハ、少クモ所謂東亞
ニ於テハ一番高カッタラウト思フ、此
ノ高カッタ日本ノ生産力ガ、初メ僕
ハ明治以來日本ガ色々ナ點ニ於テ發展
シテ行ツタ一ツノ基礎ヲ與ヘタノダト
考ヘテ居ル、其ノ點ニ付テ、農民自體
ノ生活ガドウデアッタカト云フ問題ハ
ベレバ、日本ノ農業ノ生産力ヲ中國或
ハ「ビルマ」其ノ他ノ東亞ノ米作地帯ニ
比レバ、是ハ莫大ニ差デアラウト思
フ、而モ非常ニ「ミゼラブル」ナ「イン
ド」其ノ他ノ農民ノ「コスト」ヲ以テ、
直グ其ノ日本ノモノト比較スルコト
ハ、是ハ私ハドウカト思フ、日本トシ
テハ、ヤハリ「コスト」ヲ下グルト同時
ニ、農民ノ生活水準ヲ高メント云フ方
向ニ持ツテ行クベキデハナイカト思

フ、ソレカラ、上カラノ改革ガ生産力ト
云フモノガ上ルカドウカト云フ御疑問
デアリマスルガ、斯ウ云フ農村ヲ民主
化スレバト云フ中ニハ、私ハ上カラノ
改革ト云フモノト同ジ條件ガヤハリ含
マレテ居ル、民主化サレル時ニハ、民
主化サレル人達主體ノ或ル程度ノ生長
ト云フモノヲ考ヘナケレバ、民主化サ
レ、實ヲ結ブカドウカト云フコトハ、
ヤハリ經濟ヲ行フ農民自體ト云フモノ
ノ、相當ノ啓蒙ガ私ハ必要ダと思フ、
此ノ問題ハ、私ハドウカト云フコトヲ
言ツテ見タ所デ、同ジ問題ニ歸著スル、
唯其ノ民主的ノヤリ方ト云フモノニ付
テハ、是ハ勿論自覺シタ主體のナ、農
民其ノモノノ本當ノ氣持カラ出テ、初
メ民主化サレルト云フコトハ、私共
別ニ異論ハアリマセムガ、唯生産力自
體ノ問題ニ於テ民主化シタト云フコト
デ生産力ガ上ルカト云フコトニナツテ
來ルト、私ハ多少疑問ヲ持ツノデアリ
マス、其ノ點ハ多少私ハ意見ヲ異ニス
ル、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、
唯協同化ダケデ日本ノ生産力ガ上ル
カ、アナタノ所謂民主化シタト云フダ
ケデ生産力ガ上ルカト云フコトハ、現
實ノ問題トシテハ、私ハ條件カラ言ツ
テ可ナリ無理ガアリハセムカト思ヒ
マス。

○高倉委員 具體的ナ實例ニ付キマシ
テ、成ベク觀念的ナ討論ニナリマセヌ
ヤウニ話ヲ進メテ行キタイと思ヒマ
ス、ソレデ生産力ノ低サト云フコトデ
アリマスガ、生産力ノ低サト云フコト
ハ、固ヨリ耕地面積カラ算ル所ノ收穫
量ト、ソレカラ今一ツハ、一人當リノ
労働生産量、此ノ兩方ノ面カラ考ヘタ
問題デアリマス、日本ノ農業ト云フモ

ノ程度ニ影響シテ來ルカト云フ問題ニ
歸著スルと思フノデアリマス、サウス
ルト、其ノ場合ニ考フベキコトハ、日
本全體トシテノ世界ノ貿易ニ參加シ得
ル其ノ方式如何ニ依ツテ、是ハマルデ
變テ來ルと思ヒマスシ、又其ノ當時
ニ於ケル日本ノ食糧其ノ他ノ事情ニ依
ツテモ、是ハ相當ニ變テ來ルチヤナ
イカト思フ、日本ノ食糧生産ガ非常ニ
窮乏デアツテ、生産力ハ上ラズ、而モ
不足デアリ、大部分ヲ輸入ニ俟タナケ
レバナラナイト云フヤウナ事情デアリ
マスナラバ、日本ノ農業ニ於ケル影響
ト云フモノハ可ナリアル、サウ云フ色
色ナ條件ガアリマスガ故ニ、私ハ生産
ノ條件又一應考ヘタ上デ、日本ノ農業
トシテ今我々考ヘテ置カナケレバナ
ラナイイハ、高倉サシガ觸レラレタヤ
ウニ、此ノ「インフレーション」ノ過程

テ、ソレヲ農民自體ノ生長ト言ヒマス
カ、教養ト言ヒマスカ、農民自體ノ一
種ノ向上ト云フカ、サウ云フモノモ必
要ダと思ヒマスノデ、爾カ致シマシテ、
農民ノ經濟的ナ基礎其ノモノヲ鞏固
ニスル、斯ウ云フコトガ、一應ハ基本
的ニハナケレバナラナイと思フノデアリ
マス、唯流通面ダケノ問題トシテ恐慌
ノデアリマス、ソレカラ其ノ場合ニ於
ケル、中央金庫ト云フモノガドウ云フ
面ニ働カト云フコトニナリマスレ
バ、私ハ中央金庫トシテハ、農業ノ生
産面ノ經營ト云フ面ニ、出來ルダケ其
ノ資金ヲ使ハシテ、行クト云フ方向
ニ、金融機關トシテノ將來ノ行キ方ガ
アルノデハナイカト、斯様ニ考ヘテ居
ルノデアリマス。

○高倉委員 農業恐慌ガ近イ中ニ來ル
ト云フコトダケハ、御認メニナツテイ
ラシヤイマスヤウデアリマスシ、唯
來方ニ付テノ問題デアリマスガ、併シ
ドツチニシマシタ所デ、現在ノ日本ノ
農業ヲ敢然保護シ、其ノ他ノ方法ニ依
ハ、ソレニ依ツテ辛ウジテ日本ノ農業
ノ國際的競争力ヲ護ツテ來タガ、護レ
ナクナシタコトハ、是ハ誰モ否定スル
コトガ出來ナイノデアリマス、サウシ
マス、例ヘバ今日日本ニスツテ居ル主
食物ト競争ト云フ話ヲ、和田サン自
身ノ方カラ御出シナリマシタガ、是
レマデノ計算デモ、大體「倍」ニ「コ
比」テ日本ノ内地米ハ二・四倍ノ「コ
比」ガ掛ルト云フコトニナツテ居ツ
タ、臺灣米ニ比ベテモ一・八倍ニナ
ツテ居ツタト記憶シテ居リマス、サウ
スルトハ是ハ運賃ヲ掛ケマシテモ向フカ
ラ入ツテ來ル米ト、ドウシテ競争シテ

テ居ルノデアリマスガ、唯斯ウ云フ積
極面モアルコトヲ御考ハ願ヒタイ、ソ
レハ經濟ハ市場ガ廣クナレバナル程、
全體ノ世界經濟ト云フモノハ安定性ヲ
持ツト云フコトデ、ヤハリ考ヘテ戴キ
タイ、日本ハ成程世界經濟ニ入ルト云
フ一面ニ於テ、競争ヲ受ケル譯デス
ガ、ソレト同時ニ、日本ノ農業ノ市場
ガ開サレルト云フ譯デアリマス、日
本ノ農業ト云フモノハ、何時マデモ米
麥中心ノ農業ニ歸路スベキモノデハナ
クシテ、相當農業ノ中ニ「ヴァライエ
テイ」ヲ持チ得ルモノダト考ヘテ居
ル、ソコデ生産力ノ問題デスガ、東亞
諸國ノ生産力ノ問題ハ、ソレハ生産力
ト云フヨリモ、寧ロ「コスト」ノ問題トサ
レタノデアリマスガ、ソレハ「インド」
ナリ其ノ他ノ國々ノ、非常ニ低廉ナ
「ミゼラブル」ナ生活ヲ基礎ニシテノ
「コスト」ノ御比較ダラウト思フ、生産
力自體カラ見レバ、私ハ日本ノ農業ノ
生産力ト云フモノハ、少クモ所謂東亞
ニ於テハ一番高カッタラウト思フ、此
ノ高カッタ日本ノ生産力ガ、初メ僕
ハ明治以來日本ガ色々ナ點ニ於テ發展
シテ行ツタ一ツノ基礎ヲ與ヘタノダト
考ヘテ居ル、其ノ點ニ付テ、農民自體
ノ生活ガドウデアッタカト云フ問題ハ
ベレバ、日本ノ農業ノ生産力ヲ中國或
ハ「ビルマ」其ノ他ノ東亞ノ米作地帯ニ
比レバ、是ハ莫大ニ差デアラウト思
フ、而モ非常ニ「ミゼラブル」ナ「イン
ド」其ノ他ノ農民ノ「コスト」ヲ以テ、
直グ其ノ日本ノモノト比較スルコト
ハ、是ハ私ハドウカト思フ、日本トシ
テハ、ヤハリ「コスト」ヲ下グルト同時
ニ、農民ノ生活水準ヲ高メント云フ方
向ニ持ツテ行クベキデハナイカト思

フ、ソレカラ、上カラノ改革ガ生産力ト
云フモノガ上ルカドウカト云フ御疑問
デアリマスルガ、斯ウ云フ農村ヲ民主
化スレバト云フ中ニハ、私ハ上カラノ
改革ト云フモノト同ジ條件ガヤハリ含
マレテ居ル、民主化サレル時ニハ、民
主化サレル人達主體ノ或ル程度ノ生長
ト云フモノヲ考ヘナケレバ、民主化サ
レ、實ヲ結ブカドウカト云フコトハ、
ヤハリ經濟ヲ行フ農民自體ト云フモノ
ノ、相當ノ啓蒙ガ私ハ必要ダと思フ、
此ノ問題ハ、私ハドウカト云フコトヲ
言ツテ見タ所デ、同ジ問題ニ歸著スル、
唯其ノ民主的ノヤリ方ト云フモノニ付
テハ、是ハ勿論自覺シタ主體のナ、農
民其ノモノノ本當ノ氣持カラ出テ、初
メ民主化サレルト云フコトハ、私共
別ニ異論ハアリマセムガ、唯生産力自
體ノ問題ニ於テ民主化シタト云フコト
デ生産力ガ上ルカト云フコトニナツテ
來ルト、私ハ多少疑問ヲ持ツノデアリ
マス、其ノ點ハ多少私ハ意見ヲ異ニス
ル、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、
唯協同化ダケデ日本ノ生産力ガ上ル
カ、アナタノ所謂民主化シタト云フダ
ケデ生産力ガ上ルカト云フコトハ、現
實ノ問題トシテハ、私ハ條件カラ言ツ
テ可ナリ無理ガアリハセムカト思ヒ
マス。

○高倉委員 具體的ナ實例ニ付キマシ
テ、成ベク觀念的ナ討論ニナリマセヌ
ヤウニ話ヲ進メテ行キタイと思ヒマ
ス、ソレデ生産力ノ低サト云フコトデ
アリマスガ、生産力ノ低サト云フコト
ハ、固ヨリ耕地面積カラ算ル所ノ收穫
量ト、ソレカラ今一ツハ、一人當リノ
労働生産量、此ノ兩方ノ面カラ考ヘタ
問題デアリマス、日本ノ農業ト云フモ

ノハ非常ニ努力ノ掛ル農業デアツテ、勞働生産力ガ低カッタコト云フコトハ認メナケレバナルミト思ヒマス、其ノ勞働生産力ノ低カッタ所ノ日本ノ農業ガ、一方ニ於テハ非常ニ野蠻ナ状態デ勞働力ノ掛ラナイ南方ノ農業ト、或ル場合ニハ「アメリカ」其ノ他ノ非常ニ近代化シタ勞働力ノ高い農業ト、此ノ二ツヲ敵トシテ戦ハナケレバナラナイト云フ所ニ現在我々ノ當面シテ居ル大キナ問題ガアツテ、此ノ問題ハヤハリ我ガ命懸ケデ考ヘテ置カナケレバ、是カラノ農業ヲ破滅ニ陥レルコトニナルヲラウト思フデアリマス、ソレデ工業化ト云フコトヲ仰シヤイマシタガ、是ハ日本ノ農業ヲ考ヘル爲ニ、他ノ面ヘ理由ヲ轉嫁スルヤウナ結果ニナリマス、工業化ト農業トノ關係ハヤハリ具體的ニモツト考ヘテ、例ヘバ工業化スルニ當リマシテモ、農村ノ工業化ト云フ問題カラ出テ行カナケレバ、農村ノ問題ハ決シテ片付カナインデアリマセウ、サウシテモウ一ツノ協同化ノ問題デアリマスガ、協同化ガ宜イト私言フノデハアリマセヌ、協同化シナケレバ日本ノ農業ハ近代化サレナイト云フコトデアリマス、畜力ヲ入レルニモ、機械力ヲ入レルニモ、是ハ協同化サレナケレバ出来ハシマセヌ、協同化スレバ勞働生産力ガ上ツテ、日本ノ農業ガ近代化スルト云フ意味デアリマスガ、上カラ来マズヤリ方デハ、協同化ニ依ル所ノ近代化ト云フコトガ出来ナイノデアリマス、是ハヤツテ御覽ニナレバ直グ分リマス、今マデサウ云フコトデ成功シタ例ハ日本ニナインデアリマシテ、ソレガアリマシタラ日本ハ疾ニ近代化シ、協同化シテ居ル管デアリマス、日本ノ農業ガチツトモ近代化セ

ズ、協同化シナカッタハ、其ノ何ヨリノ證據デアリマス、今はダケハヤラナケレバイケナイ、ヤルニハドウスルカト云フト、今申シマスヤウニ、實際耕地ノ交換分合ヲヤルニシタ所デ、或ハ耕地改革ヲスルニシマシテモ、機械化、畜力化、總テノコトガ、ヤハリ下カラノ民主的ナ組織ニ依ラナケレバ實際出来ナイノデアリマス、ソレヲヤラナケレバ日本ノ農業ハ近代化シナイ、勞働生産力ガ高マラナイ、ソコニ於テ外國トノ競争性ガ弱イト云フコトニナリマスカラ、結局ニ於テ是ハ我々ガ日本ノ農村ヲ民主化シ、日本ノ農業ヲ近代化シテ、一刻モ早く此ノ方向ニ向ツテ行カナケレバ、是カラノ農業恐慌ニ對シテ、我々ハ耐ヘルコトガ出来ナイ悲慘ナ状態ニ陥ルノデハナイカ、其ノ結果ハ、日本農業ダケデハナク、日本全體ニ大キナ缺陷ヲ現ハシテ、日本ガ國際的ニ復興スル爲ノ根本的ナ缺陷ニナルノデハナイカト云フコトヲ惧レルカラ、此ノ問題ヲ申上ゲルノデアリマス、此ノ點ニ關スル御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○和田國務大臣 日本ノ農業ヲ近代化シ、ソレニ協同化ヲ入レテ行クト云フ點ニ於テハ、私ハ異論ハナイノデアリマス、アナタノ御質問ガ、今仰シヤイト言ハレルノデ、協同化スルト云フコトハハリ協同化ヲ行フ所ノ農民自體ノ向上ガ必要ダラウ、主體的ナ條件ガ相當ナ高サニ達スルコトガ必要ダラウト云フコトヲ、今ノ事情ニ即シテ御答ヘシタダケデアリマス、ソレカラ協同化スルコトニ依ツテ生産量ガ上ル、斯ウ仰シヤラレルコトハ、私ハ議論シテハハリ應納得スルノデアリマス、唯問題ハ、

ドウ云フ面ニ於テ、今ノ與ヘラレタ技術條件ニ於テ、協同化ト云フモノガドノ限度ニ於テ可能デアルカト云フコトニ、具體的ナ問題トシテハ懸ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ農民ノ民主的ナ組織ト云フモノニ依ツテ初メ協同化ガ行ハレル、斯ウ云フコトデアリマスガ、組織トシテ協同化ヲ行ツテ行クト云フコトハ、私ハ賛成デアリマス、唯、今ノ日本ノ状態ヲ考ヘテ見タ時ニ、日本ノ農業ニ於テハ、例ヘバ耕地ノ交換分合ヲスルニシテモ、耕地整理ヲ行フニシテモ、缺ケテ居ルモノハヤハリ資本デアリマス、其ノ資本トハ實際ニ現在ノ農民ガ總テ之ヲ負擔出來ルカト云ヘバ、出来ナイデアリマス、ソコデ農業ヲ民主化シテ、而モ農業ノ近代化ヲ圖ツテ行ク爲ニハ、ドウシテモソコニ或ル程度ノ力ヲ必要トスルノデアリマス、是ハ現在ニ於テハ已ム得ナイ、ソレダケノ力ヲ培養スル爲ニハ、ドウシテモ國家的ナ資本ト云フモノヲ動員セザルヲ得ナイノデアリマス、サウシテ又事實現在ノ技術ニ於テハ、國家トシテ或ル程度ノモノヲ持ツテ居ルノデアリマス、之ヲ農民自體ガヤハリ解決スルト云フ形デ行ハナケレバナラナイ、サウ云フコトヲ私ハ申上ゲテ居ルノデアリマシテ、生産力ノ點ニ付テハ、我々ノ考ヘテ居リマス、勿論豫當收量ダケデハナク、勞働生産力ノ向上ト云フコトヲ同時ニ考ヘテ居ルノデアリマスガ、唯勞働生産力ダケヲ考ヘルト云フ行キ方ハ、私ハ賛成シ兼ねルノデアリマス、ヤハリ勞働生産力ノ増加ト同時ニ、段當生産量ガ上リ、同時ニ全體ノ生産量ガ上リ、隨テ「コスト」自體ハ下ツテ行クト云フコトデナケレバナラス、是ハ國民經濟的ニ

ハドウカ、斯ウ言ヒマスド、日本ノヤウナ所デハ、自然的ニ非常ニ集約化セザルヲ得ナイト云フコトニナツテ來ルト思フノデアリマス

○高倉委員 ソコデ丁度問題ガ元ノ所ニ返ツテ來ルト思フノデアリマスガ、詰リサウ云フ工合ニ日本ノ農業ヲ近代化シ、又協同化シテ生産力ヲ高メナケレバイケナイ、之ヲ當局ニ於テ認メラレルトシマス、其ノ爲ニハ此ノ中央金庫ノヤリ方ガ大キナ邪魔ラシテ居ツタ、農村カラ取上ゲタ所ノ金ヲ農村ノ復興、或ハ農民ノ生活ノ向上、農業技術ノ向上、其ノ他農業ノ本質的ナ發展ト云フ方面ニハ使ハレルコトガ非常ニ少クテ、其ノ他ノ面ニ使ハレテ居ツタト云フ所ニ、是マデノ中央金庫、農業會、其ノ他ノ中心トスル方針ニ誤リガアツタ、デアルカラ、此ノ際根本的ニ改メテ、新シイ方法ヲ依ツテ、眞ニ中央金庫ヲ金融機關ノ使命トシテ、我ガ農業ノ本質的ノ發展、農民ノ生活ノ安定ト云フ方向ニ向ケテヤレラウニスベキデアルト考ヘマスガ、其ノ爲ニハ今度ナサレタ改革ガ非常ニ末梢的ナモノデアツテ、何等ノ役ニモ立たスノデハナイカ、將來モツト根本的ノ改革ヲスル積リダカラ、今度ハ此ノ程度ニ止メルト云フ御意見カモ知レマセスケレドモ、併シ斯ウ云フ差迫ツタ問題ナンシカ、此ノ際ニハモツト根本的ナ方法ニ改メテ、眞ニ農民ノ金融機關ニナリ得ルヤウナ方向ニ持ツテ行クベキデハナイカ、斯ウ云フ工合ニ私共ハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、其ノ點ハ如何デアリマスカ

○和田國務大臣 今回ノ改正ニ依リマシテモ、御承知ノヤウニ農地ノ造成、其ノ他農業生産面ニ於ケル長期ノ金融

ノ途ヲ開イテ居ルノデアリマス、農業金融其ノモノガ生産的ノ金融ノ面ト、ソレカラ販賣ノ流通過程ニ於ケル金融ノ面ト——廣イ意味デハ農村ガ生産カラ最後ノ配分マデモ含ンデ居リマスノト同ジヤウニ、金融ノ面ニ於テモ全體ヲ含マザルヲ得ナイノデアリマス、唯從來色々批判サレテ居ツタハ、サウ云ツタ形ニ於テ生産面ヘノ金融ト云フモノガ、行ハレルコトガ非常ニ少カソタト云フコトデ、斯ウ云フ事實ハ私共アツタト思ヒマス、ヤハリ其ノ面ハ國家ガヤツテ居ツタノデアリマス、將來ノ面トシテハ協同組合的ナ金融ト云フモノガ、ヤハリ生産面ニ於テモ十分金融シ得ルヤウナ運営方針ヲ行ツテ行クベキモノゾト、方法トシテハサウ考ヘテ居リマス、大體今度ノ改正案ニ於キマシテモ、其ノ面ノ考ヘ方ハ私共ハ多少トモ取入レテ居ル積リデアリマス

○高倉委員 尙ホ最後ニソレト關聯シテ一寸御伺ヒシテ置キマスガ、今度ノ改正案ノ中ニハ養蠶、製絲ノ問題ガ含マレテ居リマスガ、養蠶、製絲ノ問題ガ、果シテ此ノ程度ノモノデ將來發展スルモノカドウカ、現在ハ見返物資トシテ製絲ノ問題ガ非常ニ重要デアルコトハ固ヨリデアリマスガ、併シ是カラ懸テ時ガ經チマシタ時、日本ノ製絲業ハ、例ヘバ「ナイロン」其ノ他ノ化學工業ト競争シナケレバナラス、又是マデ日本ニ押ヘラレテ居リマシタ所ノアノ中國ノ大規模ナル蠶絲業トモ競争シナケレバナラナイ、其ノ時ニ、今ノ蠶デ進ンデ行キマシテ此ノ競争ニ堪ヘラレト考ヘテオイデニナルカドウカ、或ハソレニ對シテ特別ニ方針ヲ持ツテ居ルカドウカ、御伺ヒシタイト思ヒマス

○和田國務大臣 是ハ中央金庫法ノ改正アリマシテ、金融部面ニ於テ重要、制絲ニ便宜與ヘヨウト云フ譯デアリマシテ、之ヲ以テ全部ガ全部日本ノ蠶業ノ基礎ガ固マルトハ老ヘテ居リマセヌ、是ハ當然ノコトデアリマスカラ、其ノ點ハ御理解戴カルト思ツテ居リマス、蠶蠶ニ付テハ、御話ノヤウニ、中國蠶業ト云フモノハ戰爭前ニ於テモ非常ニ進歩致シマシテ、殊ニ蔦介石ハ其ノ點ニ非常ニ力ヲ入レマシテ、實際良イ蠶種ガ出來テ居ツタノデアリマス、又「イタリ」ノ方ニモ相當ノ蠶絲業ガアル、「アメリカ」ノ方ハ、需要ノ方カラ言ヒマスト、今マデ輸出生絲ノ七〇%ハ婦人ノ靴下ト云フヤウなモノニ使ハレテ居ツタ譯デアリマスカラ、是ハ「ナイロン」ノ進出ニ依リマシテ、此ノ方面ハ今ノ蠶放ツテ置キマセバ、將來ノ需要ハサウ樂ハ出來マセヌ、唯蠶觸リガ「ナイロン」ヨリモ生絲ノ方ガマダ良イト云フ點ニ多少ノ特色ガアル譯デアリマスカラ、今ノ蠶放ツテ置ケバ此ノ方面ノ需要ト云フモノハ、恐ラク減ルノデハナイカト正直ニ見テ居リマス、ソコデ問題ハ特ニ「コスト」ノ問題ニナツテ來ルノデアリマス、「コスト」ガ安ケレバ、「ナイロン」ヨリモ絹ノ方ガ肌觸リガ良シ、靴下トシテモ宜イノデアリマスカラ、此ノ方面デ技術的ニ考ヘ、又蠶蠶「コスト」ヲモット下ゲ、生絲「コスト」モ下ゲテ、而モ良イ品質ノモノヲ作ルト云フコトニ、私共トシテハ今後何等カノ制度ヲ設ケテ、徹底的ニ研究シテ、改善シテ行キタイト思ツテ居リマス、ソレカラ將來結局望マルノハ、「アメリカ」ノ女ノ肌着類ト洋服デアリマス、是ハ今ハ絹ヲ他人絹デアリマスカラ、「アメ

リカ」ノ習慣トシテ女ハ一年ニ一着ツ買ツテ行ク譯デアリマス、サウスアルト此ノ方面ニ人絹ト混ツテ絹ガ一割ヲ一割、或ハ技術ニ依ツテハ二割ト云フヤウニ此ノ方面ニ混雜トシテ入ツテ行キマスカラ、是ハ非常ニ需要ノ増加トナリマスカラ、靴下ト多少失ツテモ遙カニ殖ニルと思ヒマスカラ、斯ウ云フ方面ノ研究ガ日本ニ於テ、非常ニ必要ダト思ツテ居リマス、是ハ實ハ「アメリカ」ノ事情ハ、只今コナラヘ來マス色々ノ難題ヲ見テ、又向フノ人ノ話ヲ聞イテ蠶絲省トシテモ調査研究ヲ致シテ居リマス、「アメリカ」ノ方ノ需要ノ動向ト、中國或ハ其ノ他ノ蠶絲業ノ點ナカモ十分考ヘマシテ、日本ノ蠶絲業ト云フモノニ付テハ、唯單ニ桑園ヲ確保スルカ、蠶蠶農家ヲ維持スルカ云フ以外ニ、モット基本的ナ技術的ナ研究調査ト云フモノヲ是非ヤツテ行キタイ、斯ウ考ヘテ居リマス

○高倉委員 農林當局ハ日本ノ蠶業ニ對シテ、大變樂觀的ナ見解ヲ持ツテ居ラレルヤウニ見エマシテ、私共ハ不安ヲ押ヘルコトガ出來ナイノデアリマスカラ、今御話ニナリマシタ「コスト」ノ競争性ヲ作ル爲ニハ、何時デモ日本ノ蠶民ノ生活ヲ引下ゲルコトニ依ツテ競争性ヲ作ルト云フコトト、先程申シマシタ保護政策、是マデ此「二ツ」ニ依ツテ居リマシタ、所ガ今後愈々保護政策ガ探レナイト云フコトニナリマスカラ、「コスト」ノ競争ノ爲ニ農民ノ生活ヲ一層引下ゲナケレバイケナイ、結果ニ於テサウナラザルヲ得ナイ危險ガ非常ニアルト思フ、是ハ否應ナシニ現ハレテ來ルト思フ、ソレニ對スル對策ヲハツキリ立テテ置カナイデ、其ノ他ノ末稍的ナ方法デハ、此ノ問題ノ解決ハ行カナイノデ

ハナイカ、サウ云フ意味デモ、農村ヘノ本當ノ金融機關ト云フモノヲ作り上ゲル必要ガアラウト考ヘマシテ、其ノ意味デ今度ノ改正案ニ不安ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ、私ノ質問ヲ打切りマス

○和田國務大臣 只今高倉サンノ仰シヤル結論ハ、甚ダドウモ遺憾ナコトデ、何レ後十分御諒解ヲ得タイト思ヒマスカラ、私ノ御答ヘトシテハ、私ハ「コスト」ヲ下ゲルコト云フコトハ、何モ農民ノ生活水準ヲ下ゲルコト云フコトヲ意味シテ居リマセヌ、是ハ、蠶業政策ノ目的ハ、一體農民ノ生活ヲ下ゲルコト云フヤウナ方向ノ蠶業政策ト云フモノハ、ヤルベキコトデヤナイノデアリマスカラ、是ハ何處マデモ農民ノ生活ノ水準ヲ上ゲ、農民ノ文化ヲ高メルコト云フ方向ニ行クベキデアリマス、併シ是ハ十分館々御考ヘヨ御願ヒシタイノハ、結局日本ニ於ケル資本ノ蓄積ト云フモノガ、實換レバ、日本ノ經濟力ト云フモノガ、全體トシテ高マラナケレバ、此ノ問題ハ根本的ニハ解決シナイ、所ガ蠶業ニ於テハ、幸ヒニ今度ノ戰爭ニ於キマシテ、兎ニ角農業者ハ、或ル程度ノ被覆ハ被ツタガ、此處ニ日本ノ資本ノ蓄積ヲヤルベキ餘地ガ相當アルモノアリ、茲ニ蠶業ニ對シテ凡ル改革ヲ行ツテ、其ノ生産力ヲ高メテ、資本ノ蓄積ト云フモノヲ多クシテ、日本ノ經濟力ヲ高メテ、日本ノ農民ノ生活水準ヲ高メテ行ク、斯ウ云フコトニ經濟上トシテハナツテ行クノデアリマシタ、唯生活水準ヲ低メルコトニ依ツテ競争力ヲ養フト云フ方法デ、外國ノ蠶業ニ對スル競争ト云フ問題ヲ考ヘテ居ナイコトヲ申上ゲテ置キマス

○高倉委員 今ノ農林大臣ノ御話ガゴ

ザイマシタノデ、最後ニ一言結論ヲ伺ヒマスカラ、サウスアルト、結局日本ガ「ヨーロッパ」ノ諸國ト對立出來ル所ノ資本主義的國家ニナラナケレバ、農業問題ハ片付カナイ、是カラ日本ノ進ムベキ道ハ、資本主義的ニ強化サレタル云フ道デ、斯ウ云フ結論ニナルノデアリマセウカ、今ノ御話ダトサウ思ハザルヲ得ナイノデアリマスカラ、ソレデ宜シウデザイマス

○和田國務大臣 ドウモ高倉サンハ相當「ロジック」ガ飛バレルヤウデアリマスカラ、私ハ經濟ノ生産力ト云フモノヲ高メテ行ク、斯ウ云フ風ニ申上ゲテ居ルノデアリマシテ、サウ云ツタ一ツノ政治論ヲ申上ゲタノデハナイノデアリマス

○須永委員長代理 森君

○森(幸)委員 此ハ此ノ機會ヲ借リマシテ、農林大臣ノ御所見ヲ承リタイノデアリマス、是ハ、五月三十日附ヲ以テ總理大臣並ニ農林大臣ノ方ヘ建言書ガ提出サレタト聞イテ居ルノデアリマスカラ、私ハ此ノ申上ゲルコトニ共鳴シ、或ハ之ヲ信仰シテ居ルト云フ意味デハナイノデアリマスカラ、ソレハ豫メ御含ミヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレハ、昭和十一年ノ頃カラ研究サレタ榮養週期ノ學說デアリマス、是ハ只今全國食糧増產同志會ト云フモノガ結成サレテ居リマシテ、相當ノ普及力ヲ持ツテ居ルノデアリマス、私機會ヲ得テ先般此ノ人々等ノ會合ニ出席致シマシタ、サウシテ是等ノ人々ノ所見ヲ聽イタノデアリマス、必ズシモ私ハ之ヲ承認シタ譯デアリマセヌガ、今日ハ食糧増產ノ爲ニ、凡ル角度カラ全國國民ガ研究ヲ重ねテ居ル場合デアリマス、所謂淵レル者ハ蠶ヲモ頼リニスルヤウ

ナ場合デアリマスカラ、凡ル角度カラ研究ト云フモノハ、資料ノ許シ得ラレル限リニ於テ、相當サウ云フ問題ヲ取上ゲテ研究ヲシ、ソレノ可否判斷ヲ國民ニ示シテ、サウシテ國民ヲ迷ハセナイヤウニシナケレバナラヌト思フノデアリマス、現在モ強力綜合酵母ト云フモノガ相當ニ地方ニ於テ普及サレントシテ居リマス、是等ノコトモ、政府トシテ之ヲ取上ゲテ、ソレガ良イモノデアアルカ思イモノデアアルカト云フコトヲハツキリサセテ、所謂生産農家ヲシテ誤ラシメナイヤウニシナケレバナラヌト思フノデアリマス、所ガ此ノ榮養週期說ノ問題ハ、昭和十一年カラ相當起ツテ、西ヶ原ノ方デ研究ヲ重ねタ結果、之ニ對シ非常ナ壓迫ヲ加ヘテ、戰爭中ニ於テハ、特高警察ガ此ノ普及者ニ對シテ妨害ヲ加ヘタト云フ所マデ聞イテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ問題ヲ、農林省トシテハドウ云フ風ニ御取上ゲニナツテ居ルカ、一ツ政府ノ御方針、又強力綜合酵母等ニ對シテノ所見ヲ承ツテ、農民ヲシテ迷ハシメナイヤウニシテ戴キタイ、斯様ニ考ヘマスカラ、農林大臣ノ御意見ヲ此ノ機會ニ伺ツテ置キタイノデアリマス

○和田國務大臣 其ノ問題ハ實ハ豫算總會デモ出マシテ、農林省トシテハ、普通民間ニアリマスカラ、唯頭カライカスト云フコトヲ言ツテ居ルノデアリマセヌ、十分ニ農事試験場デ科學的ナ研究ヲ致シマシタ上デ、其ノ價值ノ判斷ヲ致シテ居ル譯デアリマス、酵母學ノ問題ニ付キマシテモ、色々酵母學ヲ持ツテ來テ實ヒマシテ、農事試験場デ實驗致シマシテ、其ノ上デ意見ヲ表シテ居ルノデアリマス

○森(幸)委員 其ノ研究ノヤリ方ガ、

西ヶ原式トハ敢テ言ハナイデスケレドモ、農事試験場ト云フモノハ、ヤハリ自己ノ學說ヲ楯ニシテ、傳統ヲ持ツテ居リマスカラ、サウ云フ試験成績ノ發表ハ、信用スベキデアルノデスケレドモ、一般ニハ之ヲ信用シナイ、現ニ榮養週期說ノ問題ニ於キマシテモ、福島縣ノ試験場デハ、非常ニ成熟期ガ早マツテ來ル、早マツテ來ルケレドモ、同ジ園場デ作ツテモ滑リガ出テ來ル、同一ノ試験デモ同ジ結果ガ出ナイ、サウ云フヤウナコトデ色々ナ發表ヲスル、斯ウ云フヤウニ解釋スルノデハナイカト思フノデアリマス、サウ云フ場合ニ、個々ニ研究シテ居ル者ヲ其ノ職員ニ加ヘルトカ、所謂立會のナ試験ヲ行フト云フコトニシテ、第三者ヲシテ公正ナ試験デアリ、成程是ハ良イトカ惡イトカ、批判ヲ下セルヤウニシテ試験シナケレバ、折角ヤツテモ却テ疑ヒヲ深メルト云フコトニナツテハイケナイ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、酵素ノ問題ニ於キマシテモ、澤山實際ニ農業者ニ使ハシメテ、サウシテ實際ノ農業者ヲ指導シテ行ク、唯試験場ノ限ラレタル場所デヤラズニ、實際ニヤツテ行ク、斯ウ云フヤウナ研究ヲ進メルコトガ必要ダト私ハ考ヘルノデアリマス、今後サウ云フヤウナ態度ヲ執ツテ下サランコトヲ希望シテ置キマス

○須永委員長代理 ソレデハ今日ハモウ時間ニナリマシタカラ、是デ散會致シマス、次會ハ委員長カラ公報デ知ラセテ戴クコトニ致シマス、散會致シマス

午後零時十四分散會

昭和二十一年九月十九日印刷

昭和二十一年九月二十日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局